

大分県地球温暖化防止推進大会

12/10(木)13:30~15:30

於；大分県医師会館



冒頭、2020 脱炭素杯表彰式があり、チーム 2℃は「地域活動部門賞」を受賞、松本共同代表が授与式に参加しました。*全国大会も応募し「奨励賞」を獲得、賞状が届きました。

このような賞をいただいたことをきっかけとして、さらに地域への啓蒙活動進めていきたいと思ひます。

本質バイオマス発電を核としたSDGs への取り組み

モリショウグループ (日本フォレスト㈱、㈱グリーン発電大分、日田グリーン電力㈱)

取り組みの紹介

日田市及び近郊で育った木材で発電した電気を市内の小中学校や公共施設に供給する「電力の地産地消モデル」を中心として、建築廃材などのリサイクルや山林の保全のための種苗育成などを通じて、環境にやさしいエネルギー供給が将来にわたって継続できる仕組みづくりに取り組んでいきます。

活動の目的

- ・ 将来山林に放置されていた間伐材を買い取って、発電用の燃料として利用することで、環境にやさしい発電を行うとともに、山林の保全と林業家の収益の安定化に寄与します。
- ・ 建築廃材などをリサイクルしてチップ化することにより、省資源とゴミの減量に寄与します。
- ・ スギや早生樹の種苗を栽培し、供給を行うことで、伐採後の山林が再び森林資源を供給できるサイクルの確立を目指します。

活動の内容

モリショウグループでは、平成 25 年に㈱グリーン発電大分を設置し、発電用の燃料として使用する木質チップの原料として間伐材等を地域の林業家が

ら購入することにより、環境負荷の小さい発電を行い「地元林業の活性化」に寄与してきました。これにより年間約 19,000 トンの CO₂ 削減を達成しています。発電した電気は日田グリーン電力㈱を通じて自社工場のほか、日田市役所、日田市立の全小中学校その他の公共施設に供給しています。自社工場には、非化石証書を活用して実質再生可能エネルギー 100% の電気を供給しており、使用電力の再エネ 100% 化宣言を表明し共に行動を示していくイニシアティブである「再エネ 100 宣言 RE Action」に立ち上げメンバーとして加盟しました。

発電用の燃料となるスギの丸太は伐期に至るまでに長期間を要し、切りっぱなしでは継続的に確保することができません。当社グループでは、将来の森林資源確保を見据えて種苗センターを開設し、スギなどの種苗の生産に着手するとともに、伐期が早く単価の高い早生樹を取り入れ、材の安定供給と林業家の収入への寄与を企図しています。

また、災害発生時には地域のいち早い復興に寄与するため、流木や倒壊家屋の廃材を最大限受け入れています。

このように、企業として利潤を追求するだけでなく、10 年単位で将来を見据えて、企業や地域社会の持続可能性を高める取り組みを行っています。

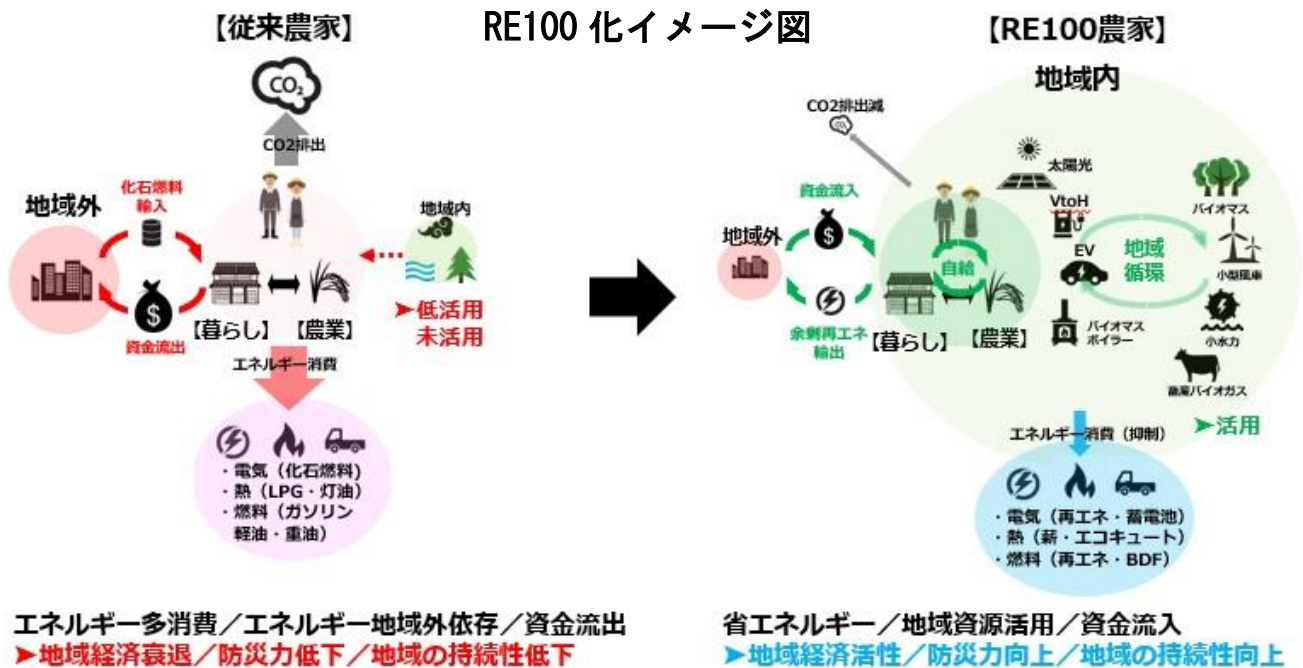
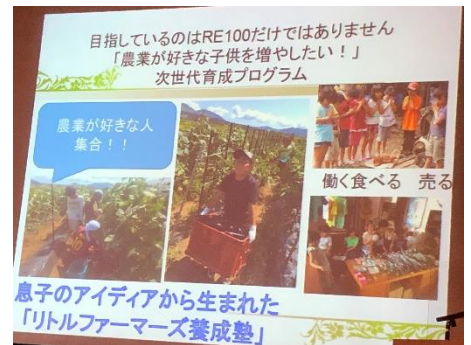


講演「農村地帯での RE100 化を目指す女性農家たちの挑戦」

NPO 法人田舎のヒロインズ (設立から 20 年の全国組織) 理事長 大津 愛梨 (えり) さん

昨年度の脱炭素杯チャレンジカップ全国大会グランプリ受賞、普通「農業は環境にいい」というイメージがありますが、実際当事者に聞くと「いやいや、ガソリンや重油はバンバン使うし、全然そんなことない！」という答えが返ってきますが、ヒロインズでは、エネルギーを持続可能なものへと転換する事から始め、まさにエネルギーも食料も農村で作るんだ〜！とRE100化を目指しています。

また多様な楽しい事業（田んぼでファッションショー、Facebook ライブでファームツアーを開催等）を展開している、熊本南阿蘇で4人の子どもを育て中、下記の写真のような女性特有を結集した活動を行っている。SDG s のほとんどのアジェンダと共有している点も素晴らしい。



本大会が平日開催であることも影響したのか、県内で先進的な推進員が不参加で素晴らしい大会なのに残念でした。多くの方に来ていただけるよう開催日を考えて欲しいと感じました。